

天白のシンボルを目指して

社会人や高校生など、アマチュアで結成した劇団天白月夜。演劇への情熱を武器に、プロとは違う舞台を模索しています。旗揚げ公演は1月。私たちの街に、まもなく劇団が誕生します。



動画で動きを確認しながら、演技や演出に意見を出し合います



4月の結団式。たくさんの人に見てもらえる劇団になろうと、思いを一つにしました



年齢性別に関係なく、団員は仲良し。良好な関係が、自然な演技を生んでいます



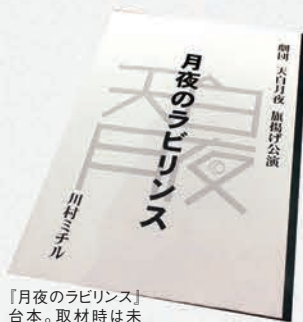
旗揚げ公演に向けて、即興演劇練習。どんな人がなぜ電車に乗っているか、自分で考えて演じます

電車内を想定した即興演劇練習。電車で起こるかもしれないトラブルを、その場で考えて演じます



熱心に台本を読み込むメンバー。個人で役づくりをするのではなく、全員で話し合ってイメージをまとめていきます

台本ができれば読み合わせ。劇場の隅まで届くよう、大きな声で演じます



『月夜のラビンス』台本。取材時は未完成でした



練習の後は反省点を話し合い。川村さんの指示待ちではなく、積極的に意見が出ます



練習では、電車で横に立った人にちょっかいをかけるなど、ユーモラスなストーリーが練り広げられました



劇団天白月夜の缶バッジを製作。団員の個性と同じく、一つひとつ柄が違います

大好きな演劇を続けたい 受講生が立ち上げを決意

初めての公演に向け稽古に励む、劇団天白月夜。立ち上げのきつかけは、平成25年に始まった天白文化小劇場主催の「プロに学ぶ演劇講座」です。週に1回、演出家であり俳優の川村ミチルさんの指導を受けられる事業でした。「演劇の心得はなく、何気なく参加しました。そこで、演技で自分を表現する楽しさへのめり込んでいったんです」と天白月夜代表の石田純孝さんは話します。当時は小学生から70代までが参加。性別、経験、職業もさまざまでした。「見交わることのない人たちが、演劇をつくり上げる過程で仲間になっていく点に魅力を感じました」。明るく人を引き付ける川村さんの人柄を慕う受講生は多く、石田さんをはじめ講座のリーダーは多いといいます。

「講座は3カ月間で終了しますが、培った経験や絆を次の芝居につなげたいという思いがありました」。平成29年9月、同じ思いを持つメンバーが集まり、劇団結成を決意。川村さんと天白文化小劇場のサポートを得て、準備が始まりました。

「天に白い月が上る夜、みんなが集まって楽しんでほしい。そんな意味を込めました」と劇団名の由来を話すのは、運営委員の若原啓子さん。「地域の事業から生まれた劇団なので、『天白』を必ず入れようと思っていました。いつか天白に馴染みがない地域で活躍できる時、この街のイメージが美しいものとなるようにと

旗揚げ公演は1月 劇団としての成長を目指す

旗揚げ公演の演目は『月夜のラビンス』。川村さんが脚本、演出を担当、天白文化小劇場が裏方などを支援しています。馴染み深い地下鉄鶴舞線を劇の舞台に選んだのは、天白区の劇団であることを強調するため。プロではないからできる、地域に密着した内容です。駅でさまざまな人と出会い、変わっていく主人公を描いています。ファンタジー要素を取り入れ、大人も子どもも楽しめる内容に仕上げました。

台本が完成したのは10月。現在は土曜日、日曜日にも練習に費やしています。道具や衣装も手づくり。限られた時間で、力を合わせて完成させていきます。「天白月夜はまだ独自のカラーができていません。これからどんな劇団になるのか、楽しみです」と川村さんは目を細めます。

石田さんは演劇の魅力を見てもらいたいと力を込めます。「この公演を第一歩に、いつか大きな劇団に成長できればうれしい」と前を見据えました。私たちの街でうまれた、劇団天白月夜。メンバーは、「旗揚げ公演は一度きり。ぜひ見に来てください」と声をそろえました。

考えました」と振り返ります。演劇講座受講生に声を掛け、メンバーを集めたのが12月。予想を上回る16人が4月の結団式に参加し、その後2人が加わりました。

話し合いが演技をつくる 川村さんと三人三脚の創作

毎週末曜日、19時から21時まで、天白文化小劇場やほっと平針などで稽古をしています。職業も年齢も多様なメンバーの共通点は、演劇が好きであること。楽しむばかりでなく、演技や演出への意見を出し合い、より完成度の高い舞台を目指します。「個人的な団員ばかりで、意見をまとめるのが大変です」とほほ笑む若原さん。意見の衝突があっても、互いの主張を理解し歩み寄り、少しずつまとまっていくといいます。「メンバーとの話し合いは新しい発見ばかり。役者としても、人としても成長させてくれます」。

川村さんは、役者の魅力を引き出す指導を心掛けています。「技術はアマチュアでも、個性を組み合わせることで見る人に楽しんでもらいたい。『プロじゃないからこんなものか』なんて思われないように、妥協はしません」と笑顔を見せます。川村さんが代表を務める「劇団そらのゆめ」の団員や、朗読の講師に白樺八重さん、振り付けの田中りえさん、発声・歌唱の大野栄潤さんなどが指導。プロからも学べる環境を整えています。

「内面の充実なしに、表現はできません。演劇には、伝えたいという思いが重要です」と川村さん。技術指



劇団 天白月夜 代表 石田純孝さん
演劇への思いは人一倍。親しみやすい人柄で、団員に愛されています



劇団 天白月夜 運営委員 若原啓子さん
演劇講座には毎回参加。劇団天白月夜の名付け親です



演出家・劇団そらのゆめ代表 川村ミチルさん
自身も劇団を率いながら、天白月夜をバックアップしています

information

劇団 天白月夜

問い合わせ:090-5624-1483(橋本)
メール:tenpaku.tsukiyo@gmail.com
ウェブサイト:https://www.tenpakutsukiyo.com/

旗揚げ公演 『月夜のラビンス』

2019.1/18[金] 19:00~1/19[土] 11:00~15:00~

場所:天白文化小劇場
チケット:前売り1,800円 当日2,000円 チケット等詳細は問い合わせから

天白文化小劇場
問い合わせ:052-806-8060 メール:tenpaku@bunka758.or.jp

